

杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて
杉戸を再発見
第117回

郷土の偉人・大島有隣
— 石門心学入門(19) —

有隣門下四天王の一人であった近藤平格は、六行舎で松山心学の祖である田中一如に学んだ後、文政十年(一八三〇)、江戸に出たようです。その当時、心学の本場京都明倫舎を凌ぐ、斯界の実力指導者でもあった江戸の大島有隣を訪ねました。蓋簀舎で有隣の薫陶を直接受けた平格は、入舎わずか五か月にして、師である有隣の代講まで務めるようになりしました。それだけではなく、諸大名や旗本の邸に向き、講話すること屢々だったようです。

その後も平格は、精力的な道話活動、道話修行の全国遊説を続け、故郷松山との往復を繰り返しています。

ところで、そうした中で平格は、遠州掛川(現静岡県掛川市)でも永く逗留して心学道話を行なっています。これに関連して、当時掛川宿下俣町・村の庄屋を務めた大庭代助妻であった梅という女性の「旅日記」(天保十二年)には、興味深い記述がいくつかあります。

まず、「旅日記」の四月四日の項をみると、以下のように記述されています。



大庭梅の「旅日記」の一部

(社会教育課 町史・文化財担当編)

〔前略〕おのれハ夫より、近藤先生の舎へ行、此近藤先生ハ、伊予国松山の藩中にて、近藤平作とて心学の先生也、さきに掛川に来られしとき道話ありて教へをうけし人なり(後略)

掛川で大庭梅が心学道話を拝聴していたことを縁として、江戸の平格の元を訪ねていることがわかります。また、穿った見方をすれば、大島有隣没(天保七年十月二十二日・一八三六)後、平格が江戸心学の中心的な存在であったことがわかります。(つづく)

杉戸町の公式LINEが もっと便利に、 使いやすくなりました。

杉戸町では行政情報を発信し、町民の皆さまに行政を身近に感じていただくため、LINE公式アカウントの運用を行ってきましたが、2月1日に新機能を加えてリニューアルしました。受信する情報を選択できる受信設定や様々な情報にアクセスできるリッチメニューに加え、わからないことを質問できるAIチャットボットなどが利用できます。

- ① **学習・成長するAIチャットボット**
AI(人口知能)を利用したプログラムで、皆さんからの質問を学習し、成長していきます。
- ② **欲しい情報だけ受け取れるセグメント配信**
これまで、全ての情報を全員に配信していました。今後は、皆さんが求める情報を選択して受信することができます。
- ③ **必要な情報に素早くアクセスするリッチメニュー**
必要な情報にスムーズにたどり着けるように、リッチメニューを配置しました。



UD FONT
by MORISAWA
ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。



杉戸町
ホームページ



メール配信
すきめー



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE